農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

大正五年十一月

出版第一一一號

埼玉縣兒玉郡に於ける百合栽培

臺灣總督府農事試驗場

目次

一 緒言……一頁
二 沿革……二
三 土質……二
四 栽培面積及產額……二
五 品種……三
六 輪栽法……四
七 繁殖法……四
八 栽培法……五
九 肥料……六
一〇 病害……七
一一 蟲害……八
一二 收穫……九
一三 收量……一〇
一四 販賣方法……一一
一五 市價……一一
一六 收支計算……一四
一七 種球貯藏法……一五
一八 本島に於ける百合栽培上の卑見……一五

農業部農業試驗所典藏
由國家圖書館數位化

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

埼玉縣兒玉郡に於ける 百合栽培

臺灣總督府農事試驗場技手　安倍輝吉

一　緒言

百合は東洋の原産にして本邦山野に自生し何れも夏季婉麗なる花を開く。就中卷丹、山百合等の品種は鱗莖澱粉質に富み、甘味と芳香とを有するが爲め花卉及食用として栽培するもの漸く多く、殊に花卉用百合は世人の趣味向上すると共に其の需要益々多きに到れり。然れ共歐米諸國に於て之が繁殖稍や困難なるの結果、種球を本邦に仰ぐもの亦少なからず。本邦に於ける花百合輸出の起原は今を去る五十四年前文久元年の頃和蘭人シーボルド氏長崎より之を携へ歸りしに初まり、其後明治六年墺國大博覽會に出品し其名聲を海外に博せしより以來需要益々增進し、年輸出額百萬圓に垂んとするに到れり。歐米諸國に於ては每年の耶蘇降誕祭（十二月二十五日）及耶蘇復活祭（三月下旬乃至四月上旬）の兩大祭に祭壇の裝飾品に供し、其の他吉凶慶弔の贈物及一般の觀賞用として珍重せらる。而して本邦に於ける百合栽培の最も盛なるは埼玉及群馬の兩縣にして、就中埼玉縣兒玉郡は百合培栽の主產地として著名なり。

従來本島に於ては高砂、鐵砲、金平（鹿の子百合に依る）及小西等野生百合の生育頗る良好にして、數年來之が栽培に從事せしものあるも栽培方法其當を得ざるの點少なからず。本調査は大正四年十二月予が賜暇歸國の際調査せしものにして、終りに本島に於ける百合栽培上の卑見を附記せ

り。本島百合栽培上多少參考ともならば幸甚なり。

二　沿　革

本郡に於ては明治十九年頃より輸出用百合の有望なるを認め該地方に存在せる姫百合、透百合及山百合を栽培し、尙ほ各地より十數種を取寄せ其風土に適するや否やを試驗せしも栽培方法當を失し爲めに其多くは失敗に歸せり。然るに當時稍好成績を得たる琉球鐵砲百合も亦球の分裂するもの多く、良品を得ること甚だ困難なりき。然るに明治三十年頃琉球鐵砲百合中より鱗片稍長く莖の下部稍紫色を帶び生育旺盛にして品質良好なるものを撰別し得て爾來之が栽培增殖を試みたる結果今日の黑軸鐵砲百合の主產地として江湖に認知せらるゝに至れり。

三　土　質

本郡主產地の土質は粘質壤土、砂質壤土、壤土及腐植質土等あるも、就中砂質壤土及壤土地最も多く、而して百合栽培地として最も良好なるは表土深き砂質壤土及壤土地にして、腐植質土の如く輕鬆なる土壤は球の結締惡しく木子の育成稍可良なるも輸出品栽培地としては不適當なるを免れず。

四　栽培面積及產額

本郡に於ける各年の栽培面積及產額と全國輸出額とを揭示せば次の如し。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

年別	兒玉郡 栽培面積	兒玉郡 產額	兒玉郡 價額	日本全國 輸出額
明治三十五年	一六・九町	三五、六四〇個	?	二三八、九八七円
同三十六年	二二・四	三七、三五〇	?	二八八、四八一
同三十七年	三一・二	四七、二五〇	?	三三五、三九一
同三十八年	五二・八	五、二一三貫	八六、五四五円	三一六、八七二
同三十九年	六五・九	六、五七四	一六五、五八一	四九二、五八四
同四十年	一四四・二	一七、〇三、六〇〇個	二四四、七六六	五六九、三九八
同四十一年	一六八・三	一四、九〇六貫	八一、七六〇	四四五、三〇三
同四十二年	一六三・六	三七、五九五	一六九、三一六	六五〇、八八二
同四十三年	一八七・五	二七、八六二	二三七、四三五	七三七、八八八
同四十四年	二二六・四	四〇、七四一	二〇九、三三六	七四四、五一三
大正元年	二六八・六	六九、八四九	三六一、七八三	九六五、四七八
同二年	二七四・五	四七、九九四	二三一、三八八	九七四、一四八
同三年	二一七・〇	四〇、三七六、五五二個	二九九、九一〇	七六四、九八八
同四年	一九九・九	二五、六八六、三二五	一七一、七六二	七七八、九九〇

五　品種

本邦輸出用百合の品種は鐵砲百合、鹿の子百合、姫百合山百合等あるも、就中鐵砲百合は其輸出額最も多く、全輸出額の九割以上を占む、而して鐵砲百合には柳葉、丸葉、黑軸の三種あるも本郡に於ては殆んど黑軸鐵砲百合のみを栽培す。本種は晩生にして草丈高く、葉は長披針形を呈し、莖

の下部稍々濃紫色を呈し、性強健にして花數多く色は純白にして香氣高し。

六　輪栽法

百合は連作を忌み、連作の結果は其發育不充分にして種々の病害に侵され易きを以て意外の損失を招くこと少なからず。故に熱心なる栽培家は土地の選擇上他郡及隣縣（群馬縣）地方に種球を運搬し、普通以上高價の地代を拂ひ栽培をなすものありと云ふ。而して之が輪栽法は地方により差異あるも、大小麥、陸稻、大豆、甘藷等と輪栽し、三四年目に再び百合を栽培するを利ありとす。本郡に於て良好と認められたる輪栽法は次の如し。

初年	二年	三年	四年
冬　夏	冬	夏　冬	夏　冬
百合…………	麥	大豆、麥、	甘藷、百合

七　繁殖法

百合の繁殖法には第一子球（木子とも云ふ）、第二鱗片、第三葉腋に生ずる珠芽、第四種子により繁殖する四法あるも、最も有利にして廣く用ひらるゝは第一子球による方法なり。子球とは莖の基部母球に接する部分に發生する小球にして、普通一莖に就き四五球を附著す。其球態色澤母球に類似するのみならず、能く母球の性質を享け且つ栽培容易にして、普通二三箇年にして輸出用に供せらるゝ、之が栽培は初め母莖より得たる周圍二寸内外のものを床植又は幅一尺五寸の畦に二條株間二寸内外として栽植す。二年目は普通植と等しく畦巾一尺五寸内外株間は球の大さと等しき距離を以

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

て栽植し、四寸球以上となりたるものは次年の輸出用種球とし、四寸に足らざるものは前年と等しく栽植し球の増大を計る、通常二箇年間栽培する時は四五寸球となる。

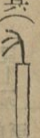
八　栽培法

整地　前作物たる甘藷又は大豆收穫後十月上中旬頃犂耕し、約一週間日光に曝露し、晴天の日を選び腐熟せる堆肥を畑全面に厚薄なく撒布し、鍬にて再び耕起し、堆肥を土壤中に混じ、振馬鍬(馬鍬と同形にして形小、歯は木製にして巾廣く人力用)にて土塊を碎き、更に鍬にて後方に下りつゝ表面を均らし、南北に高畦を作る。

栽植量　一反歩に要する種球の數は種球の大小により畦幅及株間を異にするを以て一定せず。今其標準を示せば次の如し。

球の大さ	畦幅	畦の高さ	株間	反當所要種球數（個）	反當所要種球箱數（箱）	一箱球數（個）	平均一箱價格（円）
木子 七分篩目下	一尺五寸二條	二寸	千鳥形三寸	四八、〇〇〇	六—八	自六、〇〇〇 至八、〇〇〇	四・〇〇〇
木子 七分篩目上	同	二寸	千鳥形四寸	三六、〇〇〇	八—一二	自三、〇〇〇 至四、五〇〇	六・〇〇〇
三寸球	一尺五寸	三寸	三寸	二四、〇〇〇	一四—一五	自一、六〇〇 至一、八〇〇	四・五〇〇
四寸球	一尺八寸	五寸	四寸	一五、〇〇〇	一五—一九	自八〇〇 至一、〇〇〇	五・五〇〇
五寸球	二尺	五寸	五寸	一〇、八〇〇	二一—二七	自四〇〇 至五〇〇	八・〇〇〇

備考　木子は之を床播として一箇年培養するもの少なからず。

栽植　栽植せんとするには先づ貯藏球を取り出し細根及腐敗せる鱗片を除き、石灰乳二十倍液を以て病害豫防を行ひ、前記の畦幅に溝を切り、三ツ子と稱する農具()にて其溝を掻き均らし、稀釋せる人糞尿を施し、此上に用意せる種球を上向眞直に竝列し、球の隱るゝを度とし、手にて土を寄せ、其一側約一寸位を隔て、淺き溝を作り、之に元肥を施用し、覆土す。覆土の厚さは木子、七八分、三寸球一寸、四寸球一寸五分、五寸球二寸、內外とす。

又畦幅三尺二條植となすものあるも其栽植法は前述のものと大差なし。

管理　栽植後は十二月中旬、二月中旬及三月中旬の三回中耕除草及培土をなし、生育を助く、而して中耕第二回目は霜害を防ぐため、稍深くし、第一回及第三回は稍々淺きを良とす、三月以後根の充分繁茂せる後は中耕を止め專ら除草のみを行ふ。

球の肥大生長を助くるため花梗伸長し花蕾約一寸位となりたる時に摘花を行ふ。

百合は甚だ旱魃を忌む作物なるを以て、旱天續きのときは刈草を畦間に敷き乾燥を防ぐべし。

其他病蟲の發生に注意し豫防及驅除を怠るべからず。

九　肥料

肥料の種類及施用量は區々として一定せざるも、普通元肥として堆肥三百貫匁、人糞尿百貫匁、過燐酸石灰五貫匁を用ひ、追肥は一月下旬(寒中)三月中旬(發芽前)五月下旬(開花前)の三回に施し、第一回は人糞尿反當百貫匁、第二回は完全肥料及蛹粕反當七、八貫匁、第三回は硫酸安母尼亞反當五貫匁又は人糞尿、大豆粕の如きものを(價格にて反當約五圓)施用すと云ふ。

又本郡本庄町富田新五郎氏に據れば、米糠は百合の肥料として最も良好他に比肩すべきものなしと云ふ。施用量は元肥として反當米糠九十貫匁、人糞尿十荷（約百五十貫）を施し、追肥には米糠九十貫匁を三回に分施すと云ふ。

尙ほ兒玉郡農會に於て調査せし反當施用量を掲ぐれば次の如し。

肥料名	元肥	追肥 第一回	追肥 第二回	計	價格	所含三要素量 窒素	所含三要素量 燐酸	所含三要素量 加里
	貫	貫	貫	貫	円	貫	貫	貫
堆肥	三〇〇・〇〇〇	—	—	三〇〇・〇〇〇	二・四〇〇	一・五〇〇	〇・七八〇	一・八九〇
大豆	一八・〇〇〇	一八・〇〇〇	—	三六・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一・九八〇	〇・三六〇	〇・四六八
魚占粕	五・〇〇〇	—	—	五・〇〇〇	二・五〇〇	〇・四九〇	〇・一九五	〇・〇三五
人糞尿	八〇・〇〇〇	四〇・〇〇〇	四〇・〇〇〇	一六〇・〇〇〇	二・四〇〇	〇・九一二	〇・二〇八	〇・四三二
計	—	—	—	—	一七・三〇〇	四・八八二	一・五四三	二・八二五

堆肥は整地の際一面に撒布して鋤き込み大豆は煮て魚占粕と混用し、人糞尿は五倍に稀釋して用ふ。追肥第一回は三月上旬第二回は五月上旬に施用す。

一〇　病害

（一）百合萎縮病　一名立枯病又は細菌病と稱し、Bacillus Lilii Uyeda. と稱する細菌の寄生によりて起り百合の病害中最も恐るべきものなり。本病被害の有無多少は百合栽培上損益の分る、所なるのみならず、海外の需要に關係すること甚大なるを以て、之が豫防驅除は特に注意を拂はざるべからず。本病は普通五月下旬乃至六月上旬頃現はれ先づ鱗莖を犯す。罹病莖は發芽するも勢惡しく、葉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

は萎縮し黄色を帶び、細長き黄白色の病斑無數に生ず。健全なるもの、花蕾を生ずる頃に至るも之を生ずるもの尠なく、假令花蕾を生じたるものと雖とも生長充分ならずして遂に下葉より黄變し、發病後二箇月内外にして枯死するに至る。而して發病せる鱗莖を採掘し檢すれば球は鱗片抱合せずして直立し、更に發育せる跡を認めず。却て栽植當時より其大さを減少せるものあり。

(二)百合腐敗病　本病は鱗莖貯藏中 Bhizopus neeans Mass. 菌の寄生によりて發生する病害にして、其被害大なり。其病徵は先づ鱗莖の基部變色し、漸次上方に取及し、遂に軟化腐敗するに至る。

以上二種の病害防除法を一括して記すれば次の如し。

(イ)種球は無病圃より得だるものを用ふべし。
(ロ)種球は栽植前石灰二貫匁水二斗の割合にて製せる石灰乳に五分間浸漬し病害の豫防を行ふべし。
(ハ)連作を避け少なくとも二三箇年隔て輪作すべし。
(ニ)窒素肥料の單用を避け燐酸及加里肥料と併用すべし。
(ホ)生育中罹病の兆候を有するものを認めたる時は直に拔き取り燒却し、跡地には石灰粉を撒布し延蔓を防ぐべし。
(ヘ)生育中二三回(花蕾摘採當時一回)二斗五升式ボルドー液を撒布すべし。
(ト)圃地は可成排水及ひ灌水共に良好なる場所を選ふべし。
(チ)種球の貯藏は氣通良好にして乾燥せる場所を選び尙は貯藏中は時々注意して上下に反轉し、腐敗せるものあるときは直に除去すべし。

二　蟲害

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

蟲害の主なるものは鐵砲蟲及蚜蟲なり。之が被害狀況及防除法を揭げん。

(一)鐵砲蟲　三月下旬百合發芽して將に地上に現はれんとするに際し、芽の基部(土中)を喰害し、後種球に移り害を逞しくす。被害株は莖葉萎凋し遂に枯死するに至る之が防除法は、

(イ)堆肥を多量に施用する時は發生多きが如し、故に之が施用量を節減すべし。

(ロ)栽植前種球を能く檢し小孔あるものは一日間日光に曝露すべし。

(ハ)生育中時々圃場を巡視し、莖より蟲糞の漏出するものあるときは針金を挿入し幼蟲を殺すべし。

(ニ)成蟲は見當り次第捕殺すべし。

(二)蚜蟲　梅雨期に入り氣候温暖にして濕潤なる際多く發生す。最初嫩葉部に多く順次下方に繁殖し其害を逞しくす。

之が驅除法は主に煙草エキス三十倍液を用ふ。

一二　收穫

收穫期は品種により差異あるも、普通中生鐵砲百合は八月下旬乃至十月下旬、黑軸鐵砲百合は九月上旬乃至十一月上旬收穫するものにして、收穫は莖葉黃褐色を呈するを適期とし、收穫早きに過ぐるときは貯藏中又は輸送中鱗片萎縮し品位を落すこと少なからず。

收穫法は最初株邊の除草をなし、一株宛叮嚀に掘り起し球に附著せる土を除き、鋏にて莖を可成低く切斷し、通氣佳良なる納屋に運び、左の寸法により選別す。

六寸球以下	周圍六寸に足らざるもの	八寸球	周圍八寸乃至八寸九分
六寸球	同　六寸乃至六寸九分	九寸球	同　九寸乃至九寸九分
七寸球	同　七寸乃至七寸九分		

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

以下之に從ふ

六寸球以上は輸出用とし、六寸に足らざるものは翌年の種球として貯藏す。掘採の際莖の下部に附著せる木子は叮嚀に捥ぎ採り、繁殖用に供す。

一箇年栽培せし種球の肥大量は品種、種球の品質、大小、土質、栽培法等により一定せざるも、平均一寸五分乃至二寸の生長をなす。

一三　收量

前記の如く球の肥大量は種々の事情により一定せざるを以て反當收量亦區々たるも、該地方に於ける中位の一例を示せば次の如し。

(一)　木子栽培の場合（反當收量）

球別	反當球數
五寸球	二、〇〇〇
四寸球	一〇、〇〇〇
三寸球	一五、〇〇〇
三寸以下	五、〇〇〇
屑物	二、〇〇〇
木子	一二、〇〇〇

(二)　五寸球栽培の場合（反當收量）

球別	反當球數	一箱容量	箱數
八寸球	一,〇〇〇箇	一四〇箇	七箱
七寸球	四,〇〇〇	一八〇	二二
六寸球	四,〇〇〇	二七〇	一五
屑物	二,〇〇〇	—	—
木子	四〇,〇〇〇	四,〇〇〇	一〇

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

一四　販賣方法

百合の輸出は多く横濱附近の外國取引商會によりて行はれ、栽培者直接之れが輸出をなすもの稀なり。而して之等商會は各地方仲買人又は販賣組合を經て購入し、或は直接栽培者と取引をなすものあり。栽培者より是等仲買人又は商會に販賣する方法に二法あり。第一は植付球數生育の狀態等よりして畑地植付の儘其價格を定め賣買す。第二は球賣と稱し各球の形狀、大小に隨ひ價を附するものとす。普通行はるゝは第二法にして第一法によるもの少なし。今參考のため主なる百合輸出業者を揭くれは次の如し。

横濱植木株式會社	横濱市中村町二一
高木會社	東京市本鄕區駒込町
新井商店	横濱市尾上町一ノ一
田野井商會	同　南吉田町六八六
アイザツクバンテング商會	同　居留地百番
ボーマー商會	同　居留地二十八番
サミユル商會	同　居留地二十七番

一五　市價

百合の價格は需要供給の關係一定せさるが上、仲買商人間の結託により人爲的に下落せしむることあるを以て、之か價格不同なるも、既往十數年間の賣買價格を示せば次の如し。

（本郡本庄町富國百合根信用購買販賣組合の調査による）

年次	五寸球	六寸球	七寸球	八寸球	九寸球	一尺球
	錢	錢	錢	錢	錢	錢
明治三十一年	二・〇	二・九	四・一	六・一	—	—
同三十二年	—	二・六	三・七	五・五	七・五	一一・〇
同三十三年	〇・八	一・九	二・五	三・二	—	—
同三十四年	〇・八	一・二	一・六	二・五	三・五	—
同三十五年	—	二・〇	三・二	四・二	五・二	六・二
同三十六年	—	二・三	三・五	四・五	五・五	六・五
同三十七年	—	二・四	四・〇	六・〇	八・〇	一〇・〇
同三十八年	—	三・三	五・三	七・三	九・〇	一一・三
同三十九年	—	四・〇	六・〇	八・〇	一〇・〇	一三・〇
同四十年	—	四・七	七・二	一〇・〇	一三・〇	一六・〇
同四十一年	—	二・五	四・〇	六・〇	七・五	九・五
同四十二年	—	二・七	五・〇	七・五	一〇・〇	一二・五
同四十三年	—	三・五	五・五	七・五	一〇・五	一三・〇
同四十四年	—	三・三	五・五	七・五	一一・〇	一三・〇
大正元年	一・五	二・五	五・五	八・〇	一一・〇	—
同二年	一・五	二・五	五・〇	七・〇	一〇・〇	一三・〇
同三年	—	一・〇	二・三	三・五	五・〇	八・〇
同四年	—	一・二	二・六	四・五	六・五	八・五

大正三年以後は歐洲戰亂の影響を受け輸出量減したるため價格低落せり。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

一六　收支計算（反當）

（一）五寸球栽培の場合

支出之部

一金貳百〇六圓拾錢也

內譯

種目		數量	單價	金額
小作料		—	—	18.000円
種球代		10,000球	0.015円	150.000
肥料代	堆肥	300貫	0.015	16.600
	大豆粕	36	0.200	
	魚粕	5	0.500	
	人糞尿	160	0.015	
人夫賃	整地	男5人	0.400	16.250
	植付	男2人	0.400	
		女5人	0.250	
	施肥	男5人	0.400	
	中耕除草	男8人	0.400	
		女8人	0.250	
	摘花	女2人	0.250	
	病蟲害防除	男3人	0.400	
		女3人	0.250	
	收穫及選別	男3人	0.400	
		女5人	0.250	
病蟲害防除劑代	生石灰	1罐	0.650	3.350
	硫酸銅	2磅	0.150	
	煙草エキス	13罐	0.300	
農具損料及諸雜費				2.000

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

收入之部

一金參百四拾圓也

内譯（各球の價格は平年の標準相場による）

球別	數量	單價	金額
八寸球	一、〇〇〇球	〇・〇六〇円	六〇・〇〇〇円
七寸球	四、〇〇〇	〇・〇四〇	一六〇・〇〇〇
六寸球	四、〇〇〇	〇・〇二〇	八〇・〇〇〇
木子	一〇箱	四・〇〇〇	四〇・〇〇〇

差引純益金百參拾參圓九拾錢也

（二）木子栽培の場合

支出之部

一金百參拾九圓五拾錢也

内譯

種目	數量	單價	金額
小作料	—	—	一八・〇〇〇円
種球代	木子上物（一箱三千乃至四千五百球入）一〇箱	八・〇〇〇円	八〇・〇〇〇
肥料代	—	—	二〇・〇〇〇
人夫賃（整地植付其他）	五寸球栽培の場合に等し	—	一六・一五〇
病蟲害防除劑代	同	—	三・三五〇
農具損料及諸雜費	—	—	二・〇〇〇

収入之部

一金百六拾參圓七拾五錢也

内譯（各球の價格は平年の標準相場による）

球別	數量	單價	金額
五寸球（一箱五百球人）	五箱	円 七·五〇〇	円 三七·五〇〇
四寸球（一箱八百球入）	一二箱半	五·五〇〇	六八·七五〇
三寸球（一箱千六百球入）	一〇箱	四·五〇〇	四五·〇〇〇
三寸球以下（一箱二千球入）	二箱半	三·〇〇〇	七·五〇〇
木子（一箱五千球内外入）	一箱	五·〇〇〇	五·〇〇〇

差引純益金貳拾四圓貳拾五錢也

一七　種球貯藏法

六寸球以上は輸出用に供するも周圍六寸に達せざる小球は翌年度の種球となすを以て、八九月收穫後十一月栽植に至る二三箇月の期間は之れを貯藏し置かざるべからず。貯藏の方法は石油箱又は籠に入れ通氣佳良なる室内に置き、約三週間每に晴天の日を選び三四時間蔭乾し上下に反轉して醸熱を防ぐと共に、腐敗せるものある時は之を除去す。

一八　本島に於ける百合栽培上の卑見

前述の如く兒玉郡は本邦に於ける百合の主産地にして氣候風土は能く其の生育に適し、栽培方法

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

又從つて進歩せるも、本島に於ては未だ之を栽培せし者尠なく、且つ內地其他の產地と氣候風土を異にせるを以て今後之が栽培に就き研究すべき點少なしとせず。余は數年來當場に於て之が栽培に從事せし多少の經驗に基き聊か本島百合栽培上に就き卑見を述べんとす。

緒言に於て述べし如く、百合は本島各地の山野に自生せるもの多く、其一種たる鐵砲百合は內地輸出用百合と同種なるに依つて見るも、本島氣候風土が如何に本作物の生育に適せるかを知ることを得べく、尙は當場に於て數年來試作せしものを見るに其生育頗る良好なるのみならず、之が收穫期早くして歐米市場に於て日本百合の勁敵たる英領バーミユダ島產に相讓らず。內地主產地群馬、埼玉縣產に比し、一箇月以上早く、從來早生を以て歐米市場に聲價を博せる鹿兒島縣大島郡產と稍等しく、六月中下旬より搬出し得るを以て、輸出上甚だ好都合にして且つ本作物の栽培期は十月乃至翌年六、七月にして本島農業上常に大打擊を被りつゝある八九月襲來の暴風雨及洪水に遭遇することなきのみならず、年々洪水により他作物栽培上危險せられつゝある河川附近の砂質壤土地は百合栽培地として最適當せるを以て將來斯る地方の利用上最も好適せる作物の一たるべし。

尙は本島に於て百合栽培をなさんとするの、特に注意すべき二三の點を摘記すれば次の如し。

一、種球の選擇　種球購入に際し特に注意を要すべきは病害の有無之なり。前に第九節に於て述べたるが如く、百合には百合萎縮病と稱する恐るべき病害ありて、之が被害の有無多少は栽培者一箇人の損益に關するのみならず、其地方百合栽培の消長に關すること大なり。本島に於ては從來本病の發見せられたることなかりしも、數年來內地より種球を購入し、之れが栽培をなせし結果、本病の被害を見ることあるも、未だ本病の發生尠なきを以て此後內地其他より種球を購入せんとするものは特に此點に就き注意を拂ひ、本病を未發に防がざるべからず。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

二、輪栽　前に第五節輪栽法に於て述べしか如く百合は連作を忌む作物なるを以て連年同一地に栽培する時は球の生長充分ならざるのみはらず、種々の病害發生し意外の損失を招くことあり。

三、肥料　肥料中特に注意すべきは堆肥にして充分腐熟せるものを栽植數週間前施用せざるべからず。若し新鮮なる堆肥を施用する時は種々なる病蟲發生し、意外の損失を被むることあり。充分腐熟せる堆肥なき時は堆肥を施用せず他の肥料を以て之に換ふべし。

四、管理　中耕除草培土及病蟲害の防除に注意し尙ほ旱天續きのときは畦間に刈草を敷き乾燥を防き雨天續きの時は排水に注意すべし。

本調査をなすに當り埼玉縣兒玉郡書記新井隆次郎氏及同郡本庄町富田新五郎氏の助力に與りしこと少なからず尙ほ本稿を綴るに當り臺灣總督府農事試驗場技手農學士鈴田巖氏及澤田兼吉氏に負ふ所多きを以て茲に明記して感謝の意を表す

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

BULLETIN NO. 111. DECEMBER, 1916.

AGRICULTURAL EXPERIMENT STATION

Government of Formosa.

The Cultivation of Lily in the District of Kodama Gun, Saitama Prefecture.

By

Terukichi Abe.

Published by the Staton.
Taihoku, Formosa,
Japan.